

昨年1年間の市内の犯罪発生件数は約3万9千件。

空き巣や車上ねらいなど、身近な場所での犯罪が増加しています。

そうした現状を肌で感じているのか、昨年、北海道が実施した道民意識調査では、

「犯罪はもはや人ごとではない」と不安に思っている札幌市民が6割を超えています。

犯罪を未然に防ぐために、私たちには、今、何が求められているのでしょうか。

防犯

187万都市・札幌を
“みんなの力で”
安心・安全なまちへ

地域の安全性を高めるカギは、
皆さんの「防犯」に対する
常日ごろの心掛けにあります

毎日のように新聞をにぎわす「オレオレ詐欺」や「ひったくり」。こうした事件は人ごとで、自分は引っ掛からないと思っている人が多いようですが、本当にそうでしょうか。

近年、札幌では急速な都市化に伴い、一人暮らしや夫婦のみの世帯も増え、他人に無関心で、近隣とのかかわりのない方が増えています。地域住民の無関心さやコミュニケーション不足——そうしたまちのありさまを見極めた上で、犯罪者は犯行に及んでいます。最近、社会問題化している、訪問販売によるトラブルなどもその顕著な傾向といえるでしょう。

地域で犯罪を未然に防ぐには、自分自身で犯罪に合わないよう気をつけることはもちろん、地域が無関心を装わず、積極的にコミュニケーションを図ることが大切。不審者に対する「何かご用ですか」の一言が犯罪をあきらめさせるのです。

地域が一丸となって 子どもを守る



清田中央地区児童・
生徒事故防止合同対策協議会
会長 かがや まさみつ
加賀谷 正光さん

平成9年の神戸児童連続殺傷事件に大きな衝撃を受け、地域の町内会や小学校、老人クラブなどが連携し、子どもを不審者から守る防犯活動を始めました。

具体的には、広報車での広域パトロールや、地域住民によるきめ細やかな見回りを行っているほか、警察とも協力して地域独自で約400カ所の※「子ども110番の家」を設置し、子どもがいざという時に避難できる場所を確保しています。

こうした地域一丸となった取り組みが功を奏して、昨年度の地域内における子どもに関わる事件は1件と、活動前と比べて大幅に減っています。この地域では悪いことはできないといった雰囲気生まれ、数字には現れてこない「犯罪の芽」を事前に摘んでいるのだとも思っています。



専用の広報車でのパトロール

子ども110番の家
子どもが身の危険を感じたときに
逃げ込める家。
通学路に面した民家や
商店が登録し、
看板などを掲示している。



放火については

市消防局予防課 ☎215-2040 各消防署 中央☎215-2120、北☎737-2100、東☎781-2100、白石☎861-2100、厚別☎892-2100、豊平☎852-2100、清田☎883-2100、南☎581-2100、西☎667-2100、手稲☎681-2100

消防局ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/shobo/>